

平成 22 年度第 3 回公民館運営審議会議事録  
(要点)

日 時 平成 22 年 9 月 9 日 (金) 午後 7 時～9 時  
場 所 永山公民館 4 階 視聴覚室  
出席委員 : 10 名  
欠席委員 : 0 名  
職員 : 7 名  
議事録署名 : 委員  
※傍聴者なし

1. 内 容

(1) 委員紹介及び委嘱状交付

新規委員 第 1 期 : 平成 22 年 8 月 1 日から平成 24 年 7 月 31 日まで

(2) 議事録署名人 委員を指名する。

(3) 生涯学習推進計画策定委員会の委員選出

根拠 : 第三次多摩市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱第 3 条 (3) 項

生涯学習推進計画が来年度から改定されるため策定委員会を設置する。事務局である文化スポーツ課長から委員会設立の趣旨、業務内容等について説明があり、市の第五次総合計画に基づいた部門ごとの個別の計画であることの説明があった。委員会は 9 月末から来年 3 月まで、最大 10 回を見込んでいる。

委員 1 名が立候補し、他の委員の賛同を得て公民館運営審議会からの委員に選出された。

—文化スポーツ課長退席する—

(4) 事業進捗質疑

特に質疑なし。

永山公民館長から永山フェスティバルについて、他事業について主査が説明する。

(5) 議 事

①社会教育委員の会議進捗報告及び横断的組織について

館長 当初は②③について協議する予定であったが、前回の会議で社会教育委員の臨時委員に選出した委員から会議の進捗にあわせて公運審委員の皆さんの考えを共有したいという提案があったので議事①とした。

社会教育委員会の会議の現状報告としては、7 月から既に拡大で始まっていて 2 回会議があった。

昨年度、一昨年度社会教育委員の会議の答申にある「社会教育、生涯学習に係わる市の施策等を協議する場」が、公民館は公民館運営審議会、図書館は図書館協議会等バラバラに協議がされており、統合的に議論できる機関が必要ではないかという提案があった。昨年度公民館運営審議会の答申の中でも横断的組織が必要ではな

いか、立川市・八王子市の現状を報告した経緯がある。答申書の中には「生涯学習審議会」というイメージの提案を頂いている。

市の現状では生涯学習推進計画とも若干リンクする。今回は策定委員会という形で設置されているが、策定後は進行管理、具体的な事業への企画提案、評価をする場面も考えられる。新たな審議会組織の立ち上げ時期は来年9月ごろ、来年6月議会で条例提案し、9月施行を目途に協議を進めている。阿部市長が審議会組織について事務局を市長部局側に置くのか、教育委員会側に置くのか。新たな形として公民館運営審議会、図書館協議会はそのまま存続させて、拡大で行っている社会教育委員の会議のような形で各審議会から代表者が出席して横断的な議論をするのがいいのかまとまっていない状況にある。

委員

社会教育委員の会議では公運審を代表してという立場なので「公運審としては如何ですか」と問われる際に、公運審の皆さんの気持ち、方向性を聞いて、そういう意見を集約して社会教育委員の会議に持って行きたい。昨年度出された提言書にもそういう組織は必要だと明記されて、分科会の図まであったが、何故それが必要なのかということまで詳しく言及されていなかった。

様々な行政改革、いろんな組織を整理統合して行こうと、そして新たな時代の生涯学習に向けた体制を作っていくという流れはある。それに対応してどういう組み合わせ、組織作りをしていったらいいのか、各市町村でいろんな対応がある。多摩市型の対応の仕方、コンパクトにまとまっている市でどういう形を取っていくのが一番市民にとって利益があるのかというところで皆さんの意見を伺えればと思っている。

弊害はいろいろと指摘される。公民館、図書館、体育館など社会教育施設はあるけれども横の連携がされていない。それぞれの施設がそれぞれの審議会を作って検討してきている。これまではそれで意見がそのままあったが、横のつながりを持つということがそれぞれの審議会を解消して一つにすればいいのか、今までのものはそのまま別の形の組織を作ったらいいのか、それとも第三のパターンはないのか。第三のパターンは知恵のだしどころではあるが。

委員長

新しい社会教育委員会の組織の有様について自由に意見を述べてほしい。

委員

大きな意味での社会教育、生涯学習（言葉をどうするかは別にしても）、一本化した中に分科会が必要なのかという見方があるのと、それぞれの小さな専門家チームがあってそれが集まって縦横にネットワーク化をできるようにするのがいいのか、そのあたりの整理の仕方ではないか。

委員

多摩市は高学歴な高齢者比率が高いが、「自分たちで持っているノウハウを、手を結び合って」という市民活動の場がない。できる力を持って余している。そういう人たちをどうやって連携させて、市の活性化、底上げをしていくか、そういうアプローチが必要である。スキルは違って連携できる場所はあるわけで、それを結び付けるチャンスが少ない。

委員

20年4月に編成替えをして、いろんな分野がやり易くなったのか、やり難くなったのか。

館長 社会教育委員の会議は自分たちが仕事をしていく上で関連する組織が固まっていたので、社会教育委員の会議に出ることだけで関連する情報が全部手に入った。現在は市長部局と教育委員会で分離した組織なので文化スポーツ、生涯学習については日常的な部分で途絶えている。施策レベルでは受け皿を別に作って、できるだけ情報交換をしている。教育委員会に所属して学校教育をバックアップすることを明確に位置付けしたので、それまで以上に学校との結び付きを意識しながら事業を進めていく、そういう面で日常的につながりを持つようにしている。新しい目的に沿った事業展開ということでは前進しているはずだ。

委員 横断的組織を作っても行政の中でそれをきちんとコミュニケーションを取ってまとめていかれるのか、そこまで出来ないところ側でいくら意見をまとめたとしても上手く機能しないのではないか。

委員長 教育委員会と市長部局は上手くいっているのか。

館長 特段問題があるということはない。20年4月組織改正で公民館、図書館は学校教育をかなり意識する形に軸足が動いた。学校教育の側方支援、例えば学校への出前講座とか考え方がいままで以上に根付いてきたという部分では前進があった。

委員長 国の指導はどうか。

館長 社会教育法の改正を含めて、締め付け型からむしろどんな取り組みをしているのかを含めて、いま文部科学省の中でも少し議論があるのは社会教育というもの生涯学習にここ十数年かなりスライドしてきた。本当にそれでいいのかという議論が内部にある。現役世代を対象とした社会教育、地域で生きていくためのルール、社会性、社会人としてのマナー、義務と権利、そういうところを教育していく部分が無くてもいいのかという意見が内部であることを聞いている。

委員 実は社会教育委員の会議のメンバーである。その中で学校教育の支援ということはかなり話題になっている。いま、学校は学校だけで完結できない。地域の方、保護者、いろんな社会教育施設、公民館、図書館、文化財関係、そういう教育力を学校に取り入れることが非常に必要になってくる。地域の力を学校支援に活かしていくことが大事である。その時にいろんなメニューを考えてくれるが、一方では学校にニーズがある。食育とか、環境とか、消費者教育などがあり、学校のニーズと地域の施設が提供していくものと上手くマッチすればいいが、なかなか難しい。学校が求めた時に地域にも保護者にも当たらない場合はどうしたらいいのか悩む。逆に、素晴らしいものを持って来てくれても学校が忙しかったり兼ね合いが難しい。そのあたりをコーディネートしてくれる組織、存在が中学校区単位であると学校教育に対する支援ができる。

社会教育委員の会議の横断的組織はもっとレベルが大きなところで議論している。ところが、学校教育支援となると、もっと至近なところで現場のニーズからボトムアップで下から上の方へあがっていく発想でそれに必要な横断的な組織と

か横断的な機能が必要である。そういう観点で横断的組織とか横の連携については意見を言えるが、これから社会教育の会議とかの議論は行政の中で諸々の教育委員会にあるもの、市長部局にあるものをどう関連していくかについての議論があるので、それはそれで悪くないと思う。

学校という立場からみた場合に上手く機能してもらえれば大変いいと思う。ただし、話しが大きくて難しいのではないかと。最悪は「こういう横断的な組織ができました、こういうサービスがあります。さあやってください。」とって一律学校に課していく場合に「〇〇小学校これやってないじゃないか、せっかく横断的組織をつくり地域の方が一生懸命やっているのに〇〇学校は何も動いていないじゃないか」となると厳しいものがある。

組織を作る場合は下の方から最前線のところでどのように役立つかという観点から、学校のニーズに合っているかどうかという観点をどこかで取って頂ければと思っている。

委員 公民館は住民を基軸において考えてほしい。コミュニティーセンターとの交流も公民館職員には必要ではないかと考える。公民館は住民のコーディネーターであってほしいと言ってきている。学校側でも教育に対して市民の方で専門分野を持ってる方を小・中学校へコーディネートしてほしいと思っている。

委員 現場からボトムアップは大賛成である。その時に、既存の垣根をある意味超えるような議論をする場が提供できるかが本当の意味で横断かなと思う。その時に社会教育という枠の中で横断を考えるのか、多摩市の施策というもっと大きな枠の中で考えていくのか、いくつかのレベルがある。全部見ていかないと実質的なことはできない。一番端的に示せるのが教育と福祉のオーバーラップ、幼稚園と保育園は現場が手を組まざるを得ないことになった。現実も横断的にやっている。一つの試みとして、いままでの領域を取っ払ってやってみることがテストケースとして広がっていくことがあると感じる。小さな枠では個別的に到達目標的にやっていく。目標設定にレベルを変えていかないと横断は名ばかりになってしまう。教育の捉え方をこだわっていて、やはり人を教えるというイメージがとても強いし、社会教育が偏って解釈されることが多いので、大枠を多摩市の教育の方向性とか、多摩市の施策の方向性を示したうえで横断的議論をする場所があれば盛り上がる。

委員長 審議会は施策だとか政策を作るという部分で非常に意味を持っている。そのところでは横断的というのはすごく大事だと思う。実際に事業を動かしていくこととなると現場サイドが意見を持って、その時にコーディネートするような役割、プロジェクトチームでやるのが企業では上手くやっているケースもある。審議会は政策、施策というところでやるとその横断性はすごく大事である。その事業をゴチャゴチャにしない方がいい。事業は皆さんがいろんなことを言った中でそれを具体的に誰がどうするかというところでは必ずしも横断的というよりはむしろコーディネーターが大事なような気がする。人材バンクもそれを動かせる人がいないために単に登録で終わってしまっている。

皆さんの意見を上手く委員に代弁して頂いて、よりいい方向にいけるようお願いいたします。

委員

皆さんの意見を一通り伺って共感するところが多かったので心強く思った。社会教育委員の会議について社会教育法が改正されて、会議自体も以前は置かなければいけなかったのが、置くことができる、だから置かなくてもいいということも出てくる状況になっている社会教育に対する考え方が変わってきている。

もう一つは、生涯学習という流れが大きくトレンドとして台頭してくる。生涯学習審議会が大きく上にくるような配置に対応したり、生涯学習センターというように形を衣替えしていくわけで、それは看板の架け替えではなくて大きな変更があるけれど、そこをちゃんと議論しないと単なる看板の架け替えではいろんなことに問題が起きてくる。そういう問題が大きく動いてきている。それに対して今までの体制でいいのかということやはり問題がある。学校教育についても同じだと思う。大きく現場も変わってきているし、地域や家庭との連携も必要となってきたり、いままでの体制だと上手く連携が取り辛いということで学校教育コーディネーターだとか、もっと地域の教育力を学校の教育力に活かしていく、学校の教育の力を地域に活かしていく学社融合ないしは学社連携というか、地域社会と学校との教育も必要になってきているという流れはある。

そういう中でどういう体制を取ったらいいのか。皆さんの議論の中で私自身共感する部分があった。その中でも大切にしなければいけないのが市民の視点である。社会教育委員の会議で、市長部局と教育委員会が分かれていてそれを横断的につなぐ、行政の中をつなぐ組織というような図が出ていたがそうではないだろう。市民とそれぞれの施設、行政とか市民と施設をどうつなぐかがむしろ横断的、横断というより縦断かも知れない。横断と縦断、そういうものを考えなくてはいけない。

市民の視点から見ると公民館だろうがコミセンだろうがこだわっていない。自分たちが使える安い、空いている部屋はどこなのか。こだわっているのはそれを運営している方であって、市民の側からするとそんなにこだわっていないのではないか。そういう市民の学習を支援するにはそういう体制が必要なのかという視点を持たないといけない。

市民活動まちづくりとの関係、学習と実践は分ける人もあるが、国の方では学んだだけではなくて、学んだ知識をいかに還元していくか、[知の循環]というタイトルで言っているけれど、学んだことをいかに地域社会やそういうものに活かしていくのか生涯学習部局でも学校教育と地域社会との融合を謳っている。時代の状況に対応した意味でも横断的な、かつ縦断的な組織が必要だという皆さんの意見は私自身同感なので、そういったことをまとめて社会教育委員の会議へ持って行きたい。

次に、社会教育委員の会議で話題になったがコーディネーターが予算化されていると聞いた。実際に学校コーディネーターとして配置されているのか。

委員

教育振興課へ1名国土館大学から先生が来ている。

ただし、1名だけではなくて、学区ごとに配置されて小さなエリアで活躍して頂ければいいと思う。

②平成23年度予算編成に向けて

館長 来年度予算編成について今年度と同額で積算した場合、十数億円不足する。スクラップアンドビルドをベースにして予算編成をしていく。

永山公民館

- ・授乳スペース新設，ギャラリー壁面，ロビー照明工事
- ・印刷機購入（更新）
- ・ホール液晶プロジェクター購入（更新）
- ・無線LAN工事は数百万円かかり，ランニングコストも負担がある。平成23年度予算に盛り込まない方向である。

関戸公民館

- ・収入源を考える
- ・7階から8階への階段両サイドの手すり補修
- ・ホールの転換を利用枠外に実施し利用枠の増
- ・温暖化防止8%減のための対策を講じる

委員長 初期初動はサービスで，きっかけづくりは行政負担でいいけれど，受益者負担の原則を考えて予算化の中に盛り込んでほしい。

### ③答申提案の実現に向けて

館長 今日の議事でも皆さん念頭において議論して頂いた。これについては改めて議論ということではなくて結構である。次回以降も引き続き前提として議論して頂ければと思います。

## (6) その他

### ①東京都公民館連絡協議会課題別研修について

事務局 ・研修会の案内  
・東京都公民館連絡協議会について  
都公連の活動内容を報告，加盟しているメリット・デメリット，加盟状況（現市14市）などを説明し，脱退を検討している。

### ②利用者懇談会のお知らせ

開催日 平成23年1月19日（水）夜間 永山公民館 ベルブホール  
平成23年1月22日（土）午前 関戸公民館 大会議室  
次回の会議の際に，委員の出欠席を確認する。

以上で閉会する。